

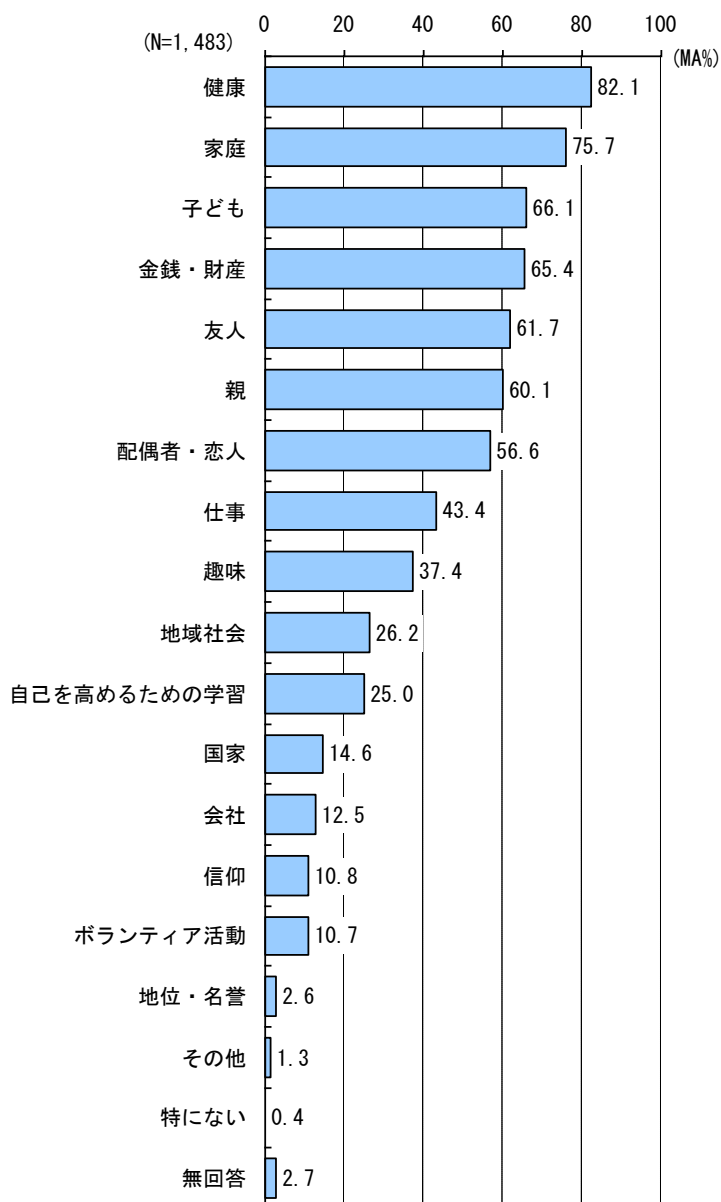
II 調査の結果

1 生活や社会に関する考え方について

(1) 生活の中で大切にしたいもの

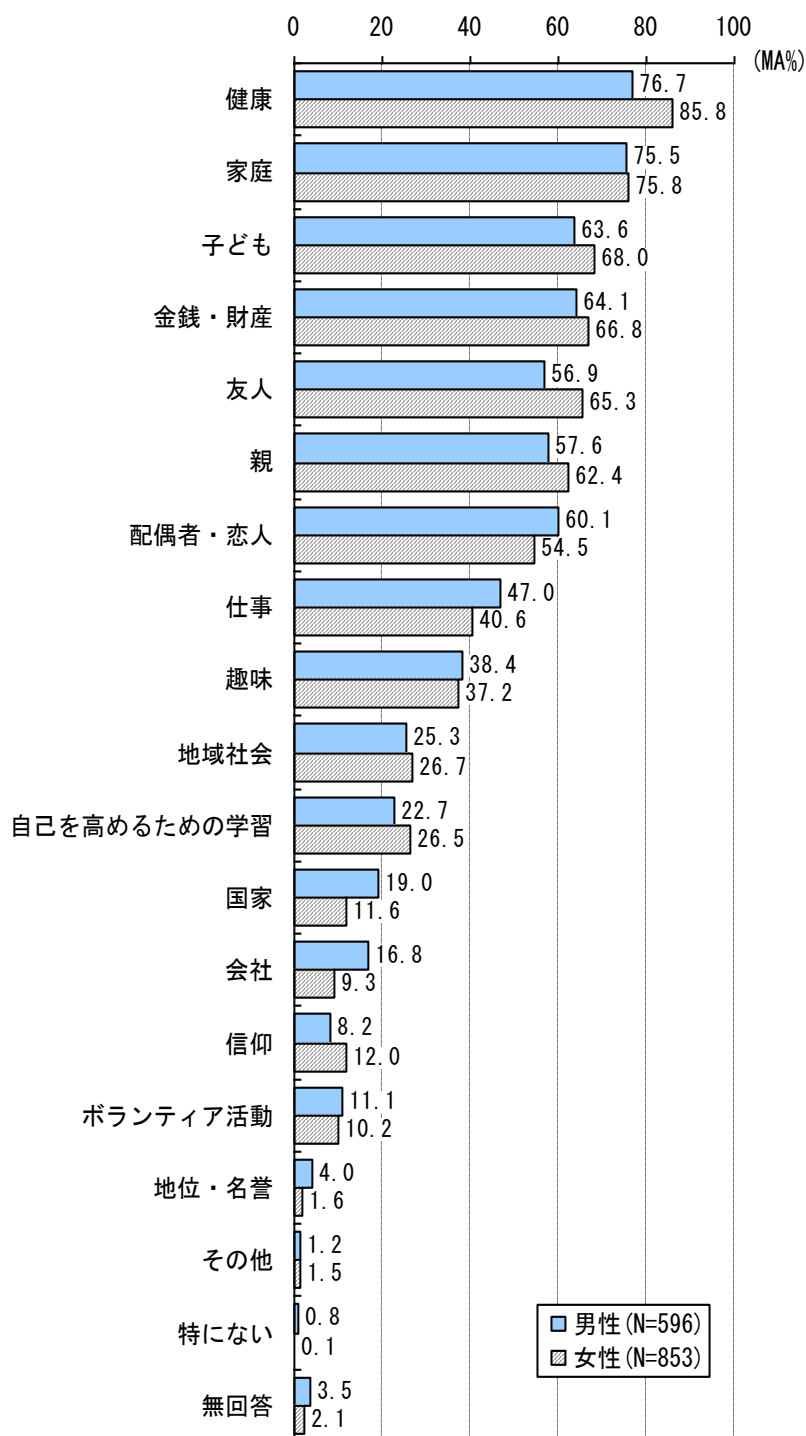
問1 あなたが生活の中で大切にしたいと思っているものは何ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

【図 1-1 生活の中で大切にしたいもの】



生活の中で大切にしたいものについては、「健康」(82.1%)が最も高く、次いで「家庭」(75.7%)、「子ども」(66.1%)、「金銭・財産」(65.4%)となっている。また、「友人」(61.7%)、「親」(60.1%)、「配偶者・恋人」(56.6%)が過半数を占めている。(図 1-1)

【図 1-1-1 性別 生活の中で大切にしたいもの】



生活の中で大切にしたいものを性別でみると、男女とも「健康」が最も高くなっており、女性（85.8%）が男性（76.7%）に比べ9.1ポイント高くなっている。

また、「友人」では女性（65.3%）が男性（56.9%）に比べ8.4ポイント高く、「仕事」では男性（47.0%）が女性（40.6%）に比べ6.4ポイント高くなっている。（図 1-1-1）

【表 1-1-2 年代別 生活の中で大切にしたいもの】

(上段：回答者数／下段：回答比率) (MA%)

	調査数	健康	家庭	子ども	金銭・財産	友人	親	配偶者・恋人	仕事	趣味
20歳未満	50 100.0	30 60.0	22 44.0	15 30.0	35 70.0	40 80.0	36 72.0	17 34.0	17 34.0	26 52.0
20歳代	130 100.0	92 70.8	77 59.2	45 34.6	95 73.1	105 80.8	106 81.5	74 56.9	61 46.9	64 49.2
30歳代	242 100.0	195 80.6	185 76.4	161 66.5	171 70.7	156 64.5	190 78.5	167 69.0	124 51.2	96 39.7
40歳代	229 100.0	185 80.8	178 77.7	163 71.2	144 62.9	150 65.5	161 70.3	135 59.0	119 52.0	76 33.2
50歳代	228 100.0	199 87.3	181 79.4	171 75.0	149 65.4	141 61.8	147 64.5	139 61.0	117 51.3	73 32.0
60歳代	336 100.0	287 85.4	274 81.5	253 75.3	221 65.8	192 57.1	156 46.4	188 56.0	125 37.2	128 38.1
70歳以上	237 100.0	204 86.1	181 76.4	153 64.6	140 59.1	114 48.1	81 34.2	105 44.3	67 28.3	83 35.0

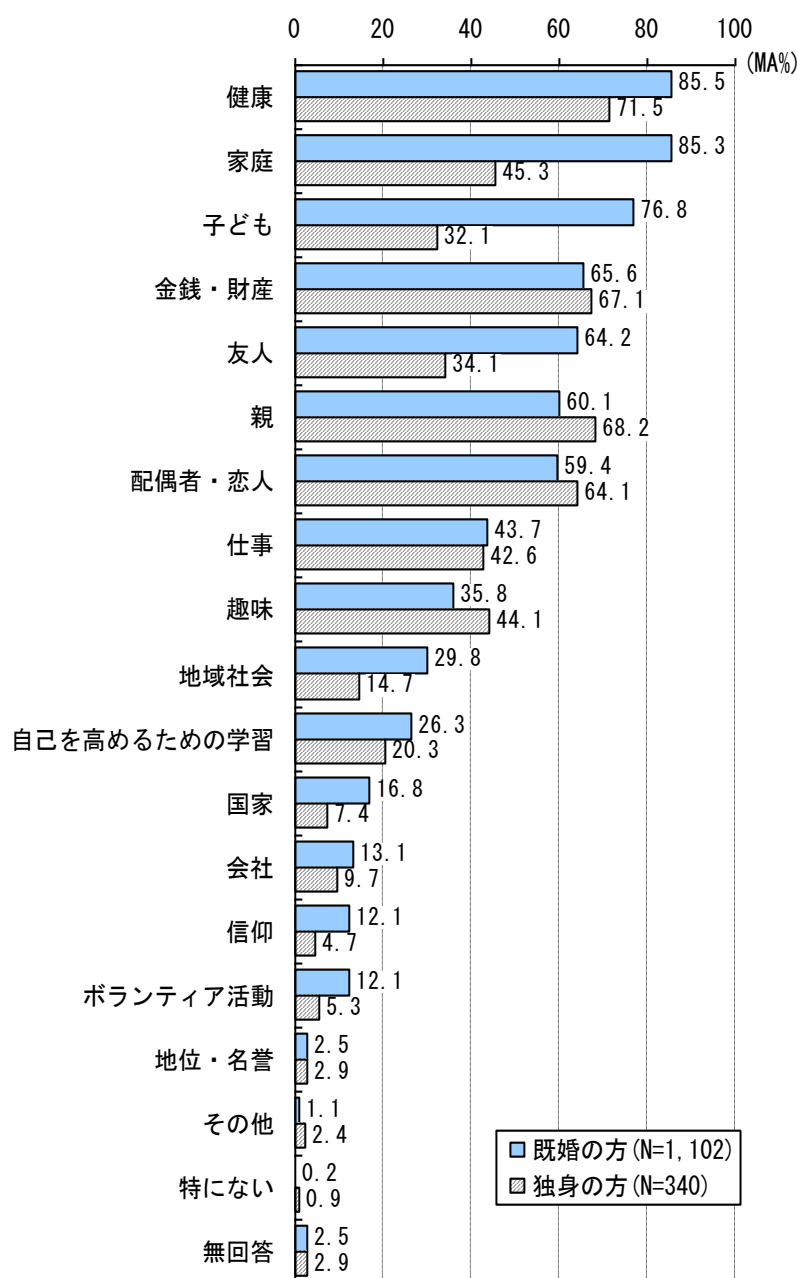
	地域社会	自己を高めるための学習	国家	会社	信仰	ボランティア活動	地位・名誉	その他	特にない	無回答
20歳未満	4 8.0	15 30.0	- -	4 8.0	1 2.0	2 4.0	4 8.0	3 6.0	- -	1 2.0
20歳代	14 10.8	27 20.8	9 6.9	12 9.2	5 3.8	6 4.6	4 3.1	4 3.1	1 0.8	1 0.8
30歳代	48 19.8	50 20.7	17 7.0	33 13.6	10 4.1	13 5.4	5 2.1	3 1.2	1 0.4	6 2.5
40歳代	43 18.8	43 18.8	13 5.7	35 15.3	19 8.3	14 6.1	3 1.3	4 1.7	1 0.4	5 2.2
50歳代	61 26.8	65 28.5	25 11.0	24 10.5	27 11.8	22 9.6	8 3.5	3 1.3	1 0.4	5 2.2
60歳代	124 36.9	90 26.8	78 23.2	43 12.8	38 11.3	54 16.1	8 2.4	1 0.3	1 0.3	13 3.9
70歳以上	86 36.3	71 30.0	70 29.5	27 11.4	52 21.9	42 17.7	6 2.5	2 0.8	1 0.4	8 3.4

生活の中で大切にしたいものを年代別で見ると、30歳代以上の年代では、「健康」、「家庭」、「子ども」の割合が高く、特に「健康」が8割台と高くなっている。

また、20歳代以下の年代では、「友人」、「趣味」の割合が高く、特に「友人」が8割台と高くなっている。

また、「地域社会」や「国家」、「信仰」では年代が上がるにつれて上昇している。(表 1-1-2)

【図 1-1-3 結婚の有無別 生活の中で大切にしたいもの】

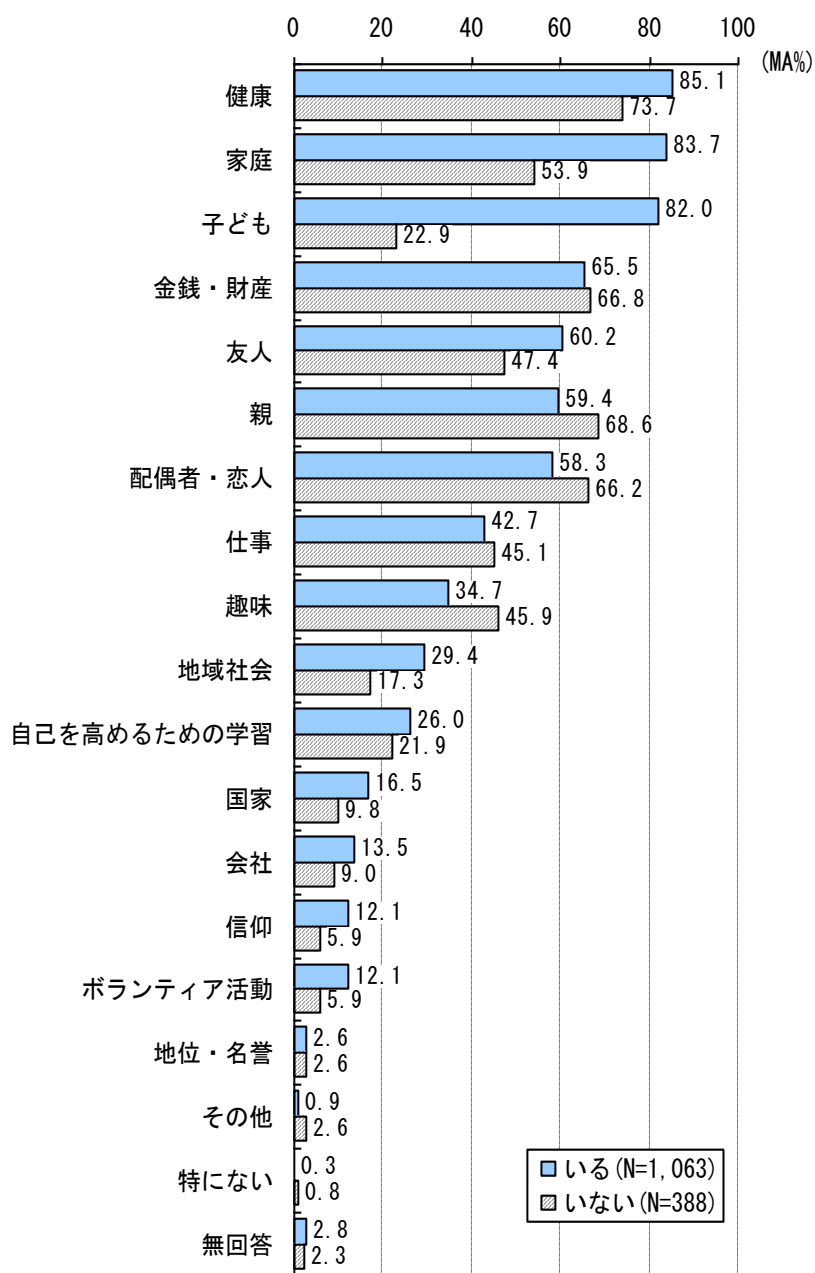


生活の中で大切にしたいものを結婚の有無別で見ると、既婚・独身の方とも「健康」が最も高くなっており、既婚の方（85.5%）が独身の方（71.5%）に比べ14.0ポイント高くなっている。

また、既婚の方が独身の方に比べ割合が高い項目は、「子ども」が44.7ポイント、「家庭」が40.0ポイント、「友人」では30.1ポイント、「地域社会」では15.1ポイント高くなっている。

一方、独身の方が既婚の方に比べ割合が高い項目は、「趣味」が8.3ポイント、「親」が8.1ポイント高くなっている。（図 1-1-3）

【図 1-1-4 子どもの有無別 生活の中で大切にしたいもの】



生活の中で大切にしたいものを子どもの有無別で見ると、いる・いないとも「健康」が最も高くなっており、いる人(85.1%)がいない人(73.7%)に比べ11.4ポイント高くなっている。

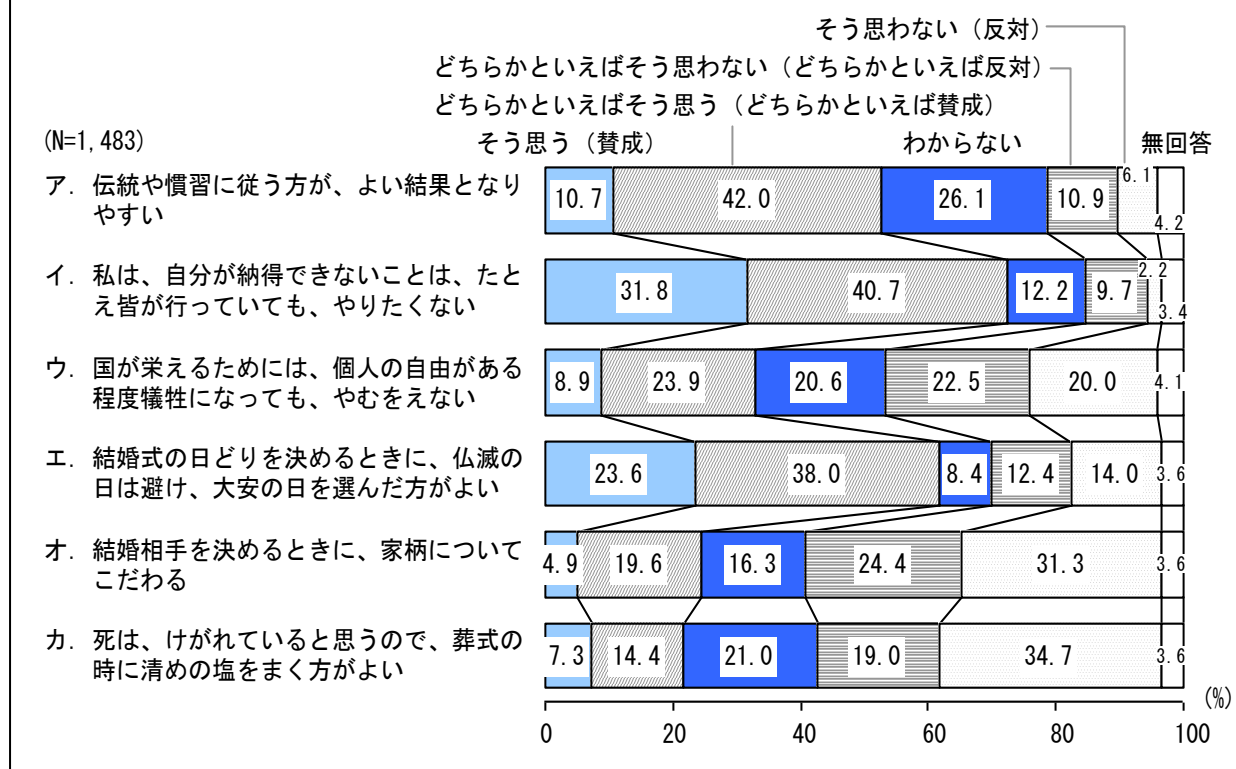
また、いる人がいない人に比べ割合が高い項目は、「子ども」が59.1ポイント、「家庭」が29.8ポイント、「友人」が12.8ポイント、「地域社会」が12.1ポイント高くなっている。

一方、いない人がいる人に比べ割合が高い項目は、「趣味」が11.2ポイント、「親」が9.2ポイント、「配偶者・恋人」が7.9ポイント高くなっている。(図 1-1-4)

(2) 伝統・慣習等に対する意識

問2 次のア～カについて、あなたの考え方に最も近いものをそれぞれ選んでください。
(ア～カのそれぞれについてあてはまる番号1つに○)

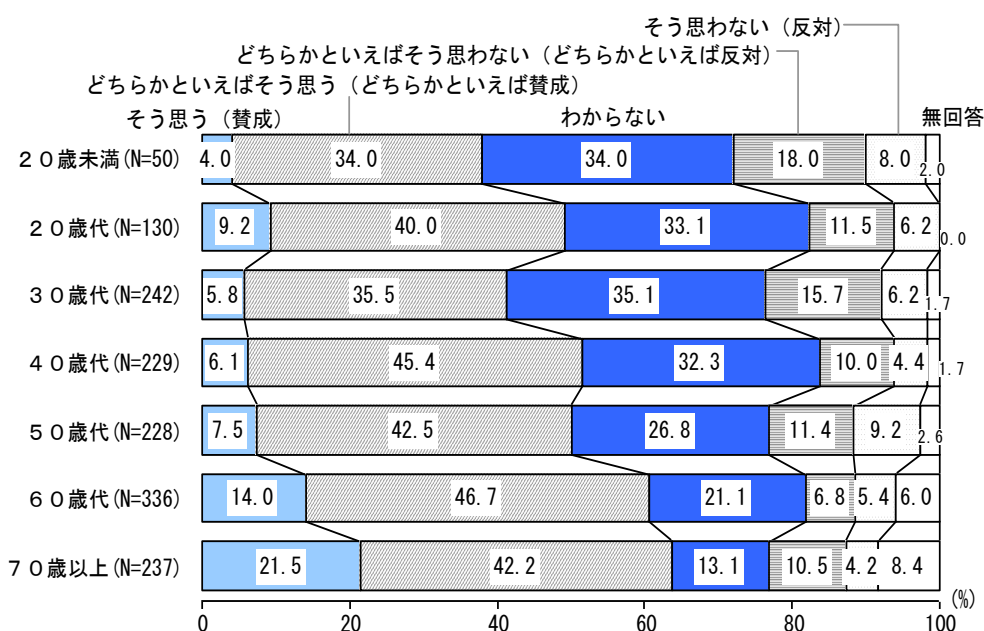
【図 1-2 伝統・慣習等に対する意識】



伝統・慣習等に対する意識について、“肯定派”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数）が“否定派”（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた数）に比べ高い項目は、「イ. 私は、自分が納得できないことは、たとえ皆が行っていても、やりたくない」（72.5%）、「エ. 結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい」（61.6%）、「ア. 伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい」（52.7%）となっており、過半数を占めている。

一方、“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高い項目は、「オ. 結婚相手を決めるときに、家柄についてこだわる」（55.7%）、「カ. 死は、けがれていると思うので、葬式の際に清めの塩をまく方がよい」（53.7%）、「ウ. 国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない」（42.5%）となっている。（図 1-2）

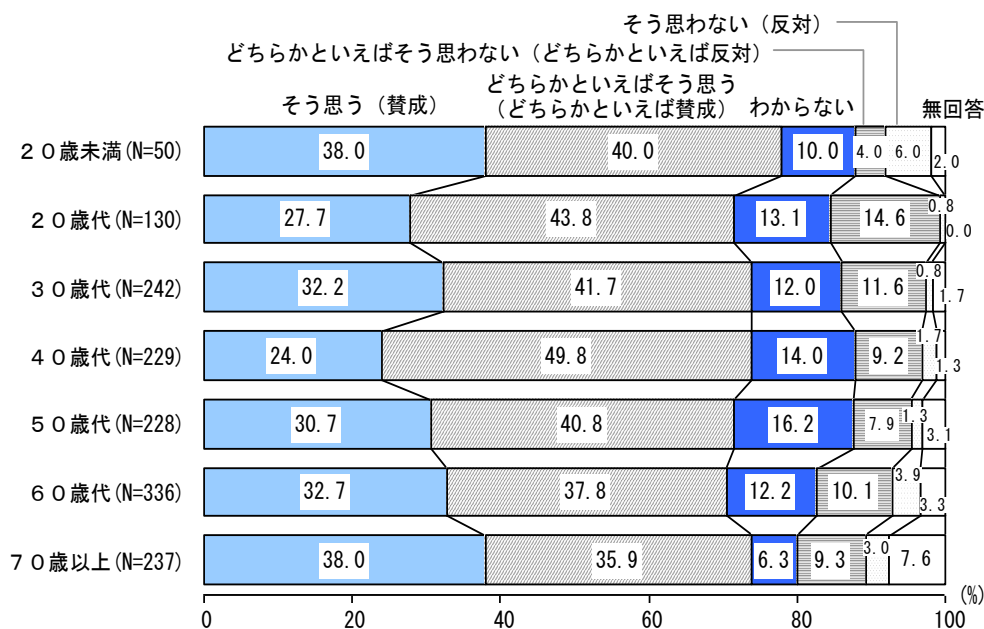
【図 1-2-1 年代別 ア. 伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい】



「ア. 伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、40歳代以上の年代では過半数を占めている。

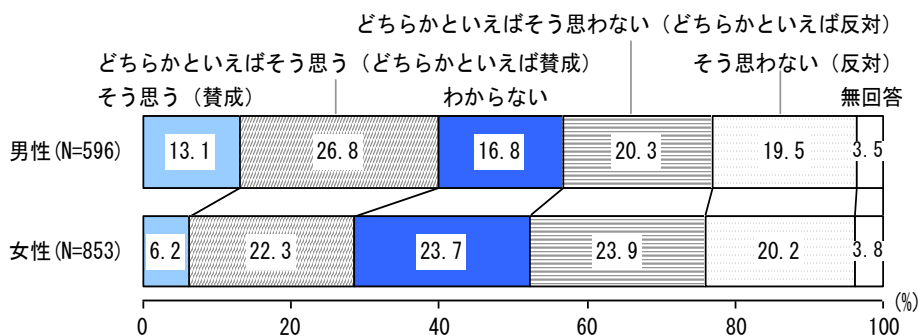
また、“否定派”では、20歳未満 (26.0%)、30歳代 (21.9%)、50歳代 (20.6%) で2割台を占めている。(図 1-2-1)

【図 1-2-2 年代別 イ. 私は、自分が納得できないことは、たとえ皆が行っていても、やりたくない】



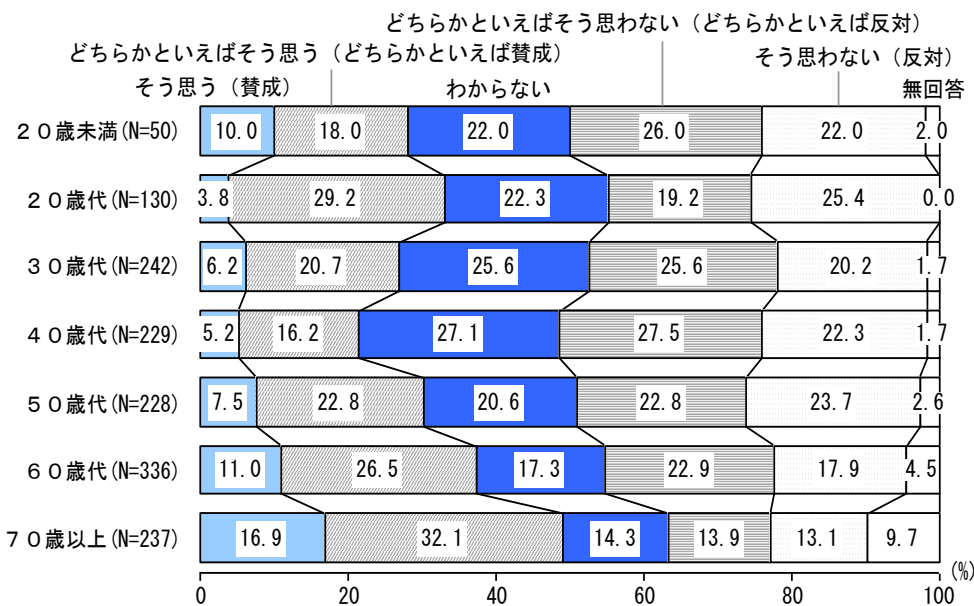
「イ. 私は、自分が納得できないことは、たとえ皆が行っていても、やりたくない」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が7割台を占めており、特に20歳未満では78.0%と高くなっている。(図 1-2-2)

【図 1-2-3 性別 ウ. 国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない】



「ウ. 国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない」を性別でみると、“肯定派”は男性（39.9%）が女性（28.5%）に比べ11.4ポイント高くなっており、一方、“否定派”では女性（44.1%）が男性（39.8%）に比べ4.3ポイント高くなっている。（図 1-2-3）

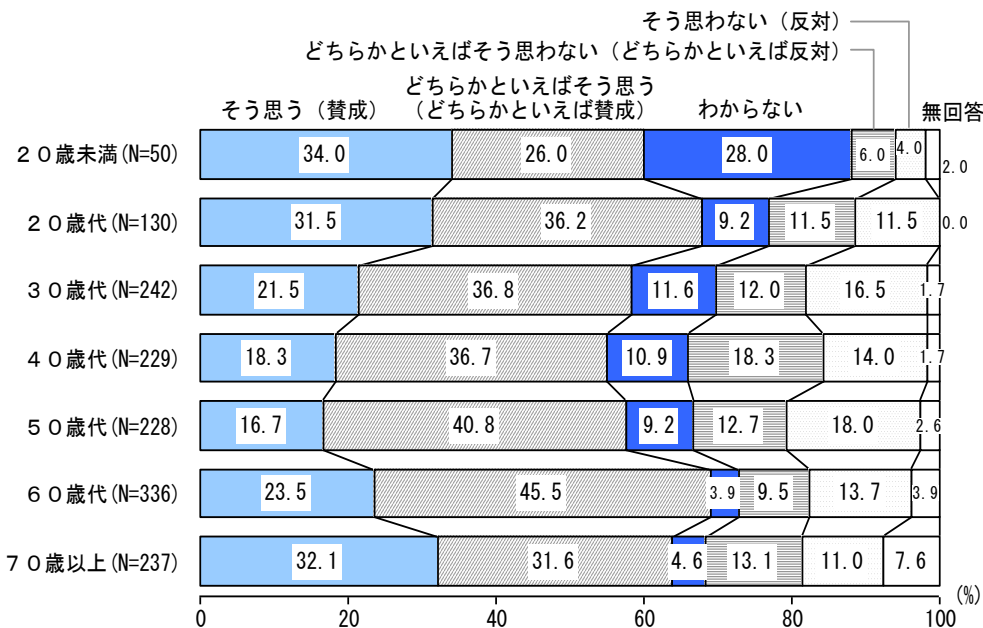
【図 1-2-4 年代別 ウ. 国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない】



「ウ. 国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない」を年代別でみると、60歳代以下の年代では“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっており、特に40歳代では49.8%と高くなっている。

また、70歳以上では、“肯定派”が49.0%を占めて“否定派”に比べ割合が高くなっている。（図 1-2-4）

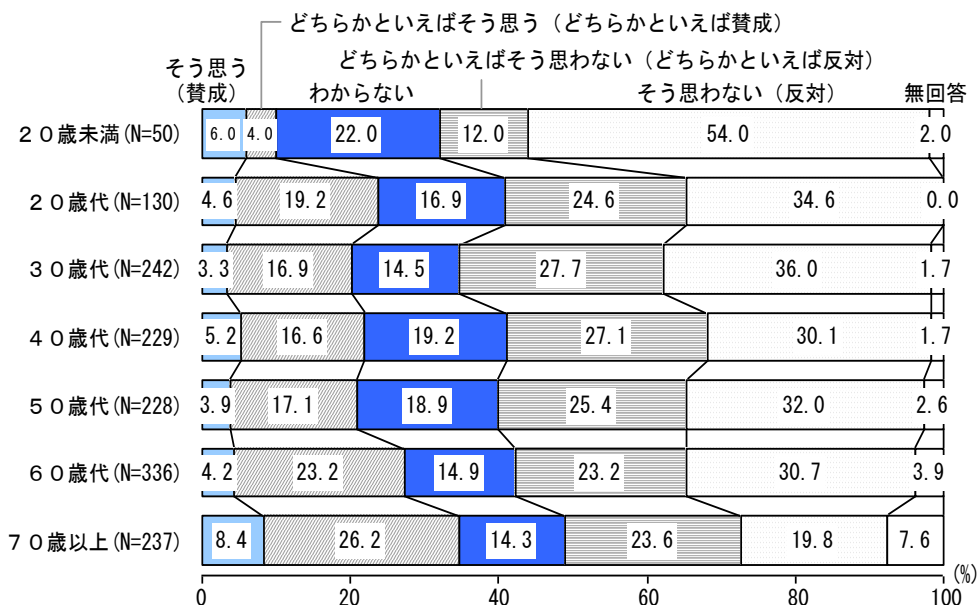
【図 1-2-5 年代別 エ. 結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい】



「エ. 結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が6割前後を占めており、特に60歳代では69.0%、20歳代で67.7%と高くなっている。

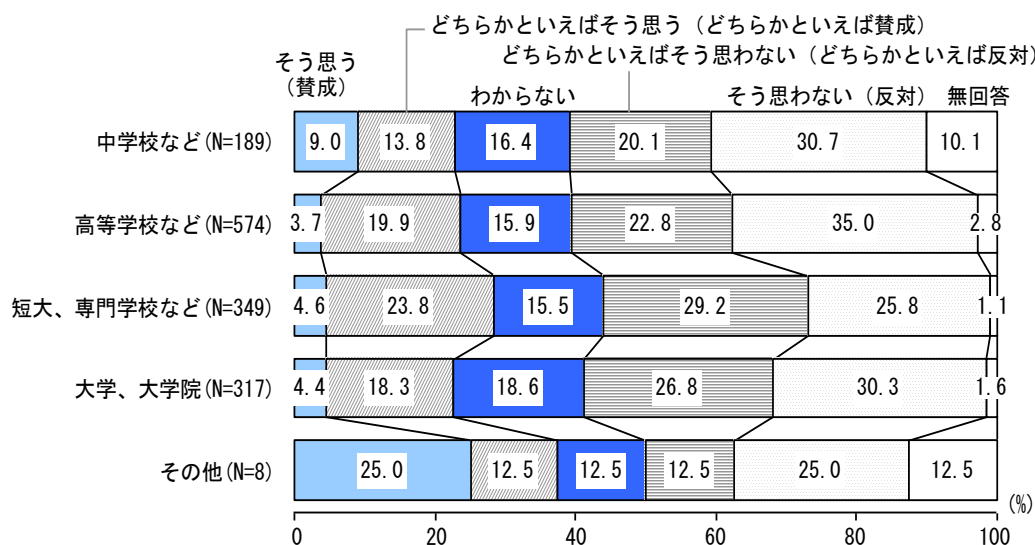
一方、“否定派”では30歳代～50歳代で3割前後を占めており、他の年代と比べ割合が高くなっている。この項目でも、若年層での保守化傾向が顕著にうかがえる。(図 1-2-5)

【図 1-2-6 年代別 オ. 結婚相手を決めるときに、家柄についてこだわる】



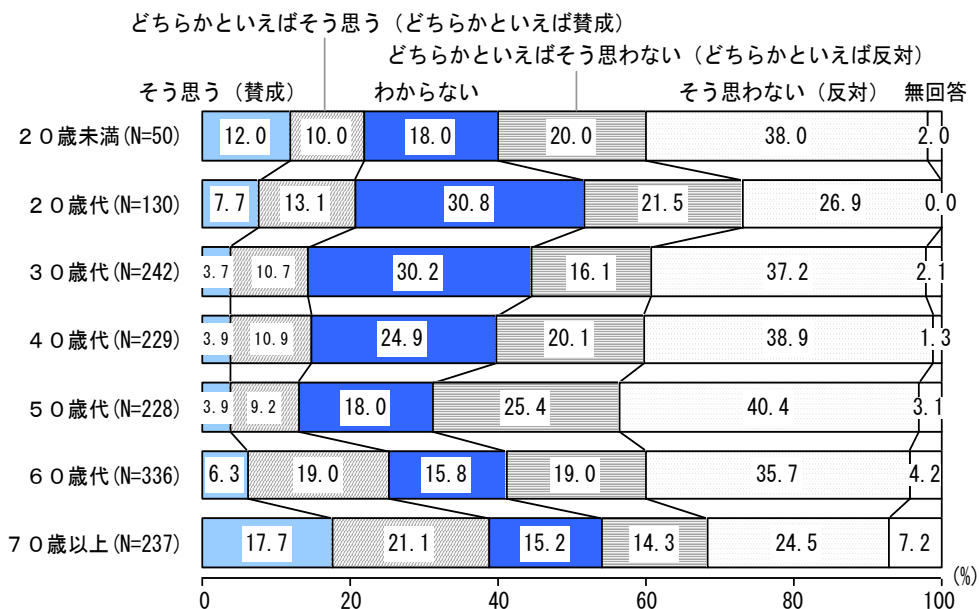
「オ. 結婚相手を決めるときに、家柄についてこだわる」を年代別でみると、各年代で“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっており、70歳以上を除くすべての年代で「こだわらない」とする否定派が過半数を占めている。70歳以上でも「こだわる」とする肯定派が34.6%、「こだわらない」とする否定派が43.4%と、否定派が多数を占めている。(図 1-2-6)

【図 1-2-7 最終学歴別 オ. 結婚相手を決めるときに、家柄についてこだわる】



「オ. 結婚相手を決めるときに、家柄についてこだわる」を最終学歴別で見ると、各学歴で“否定派”が過半数を占めており、一方、“肯定派”では短大、専門学校など (28.4%) が他の学歴に比べ割合がわずかに高くなっている。ただし、学歴による有意差はないといっていよう。 (図 1-2-7)

【図 1-2-8 年代別 カ. 死は、けがれていると思うので、葬式の時に清めの塩をまく方がよい】



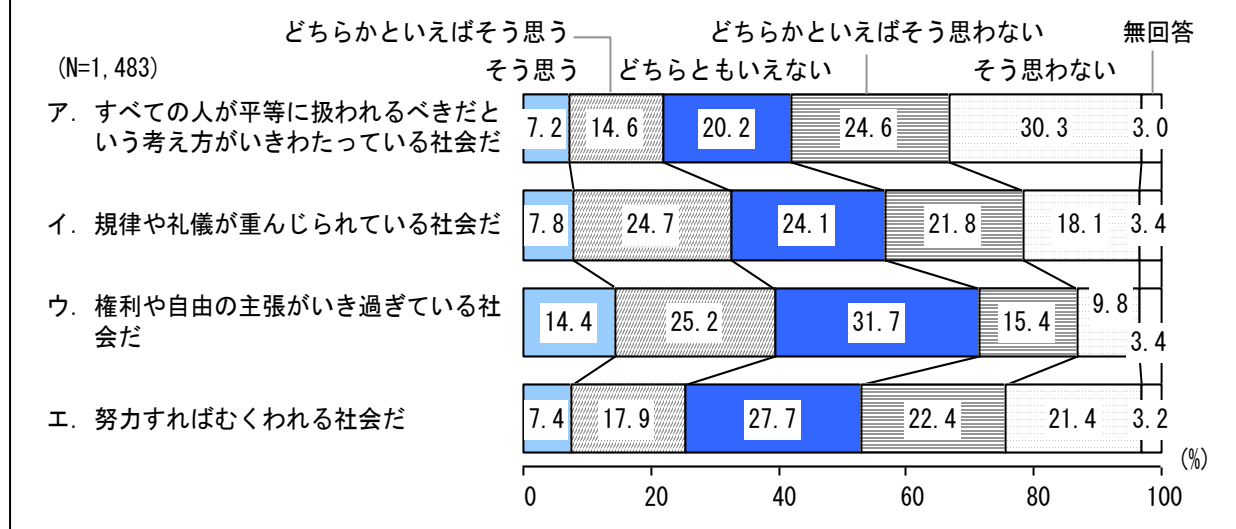
「カ. 死は、けがれていると思うので、葬式の時に清めの塩をまく方がよい」を年代別で見ると、60歳代以下の年代で“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっており、5割前後を占めている。特に50歳代では65.8%と高くなっている。

また、70歳以上では、“肯定派”と“否定派”がともに38.8%で同率となっている。 (図 1-2-8)

(3) 現在の日本社会に関する考え方

問3 あなたは次にあげる現在の日本社会に関する考え方についてどう思いますか。
(ア～エのそれぞれについてあてはまる番号1つに○)

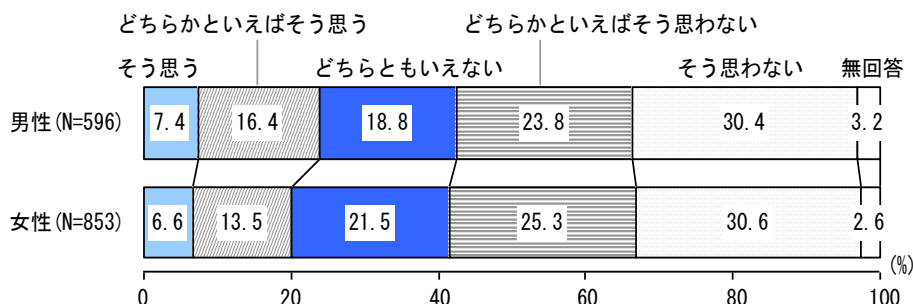
【図1-3 現在の日本社会に関する考え方】



現在の日本社会に関する考え方について、「否定派」が「肯定派」に比べ割合が高い項目は、「ア. すべての人が平等に扱われるべきだという考え方がいきている社会だ」(54.9%)、「エ. 努力すればむくわれる社会だ」(43.8%)、「イ. 規律や礼儀が重んじられている社会だ」(39.9%)となっている。

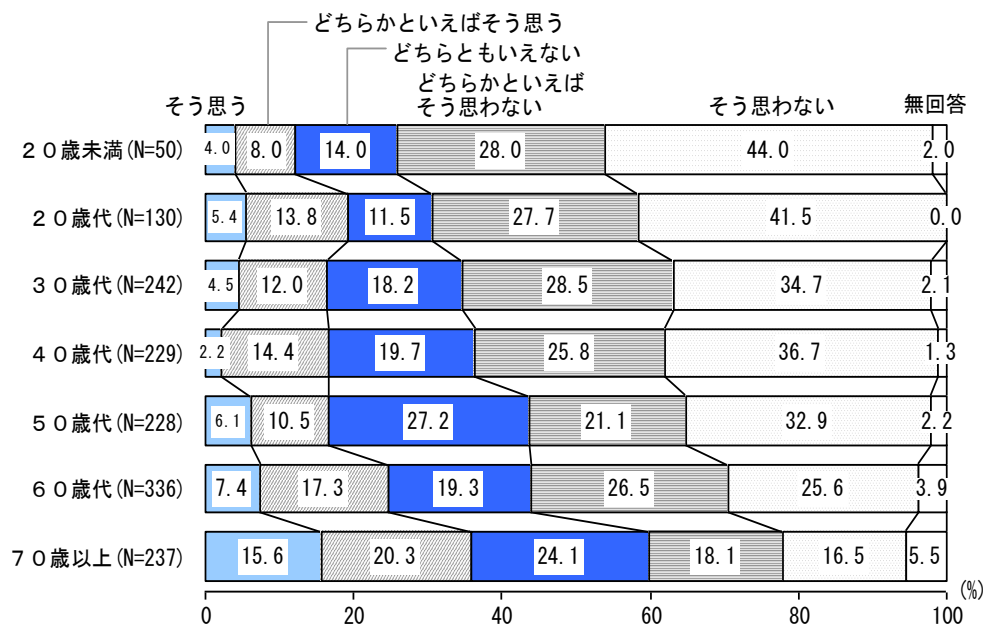
また、「ウ. 権利や自由の主張がいき過ぎている社会だ」では、「どちらともいえない」(31.7%)が最も高く、「肯定派」(29.6%)が「否定派」(25.2%)に比べ割合が高くなっている。全体として日本社会の評価では、肯定的な評価よりも否定的な評価をしている人の方が多い結果となっている。(図1-3)

【図1-3-1 性別 ア. すべての人が平等に扱われるべきだという考え方がいきている社会だ】



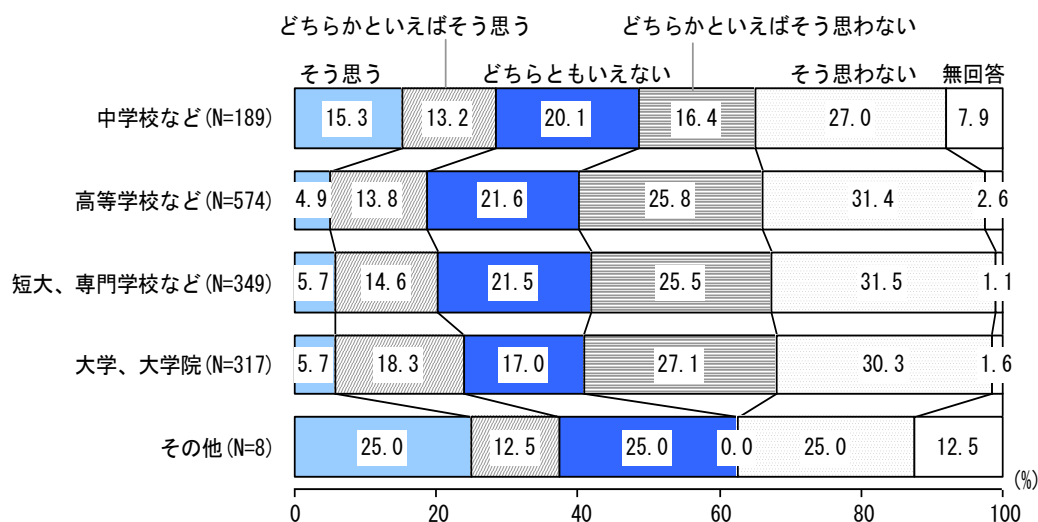
「ア. すべての人が平等に扱われるべきだという考え方がいきている社会だ」を性別で見ると、男女とも「否定派」が過半数を占めている。(図1-3-1)

【図 1-3-2 年代別 ア. すべての人が平等に扱われるべきだという考え方がいきわたっている社会だ】



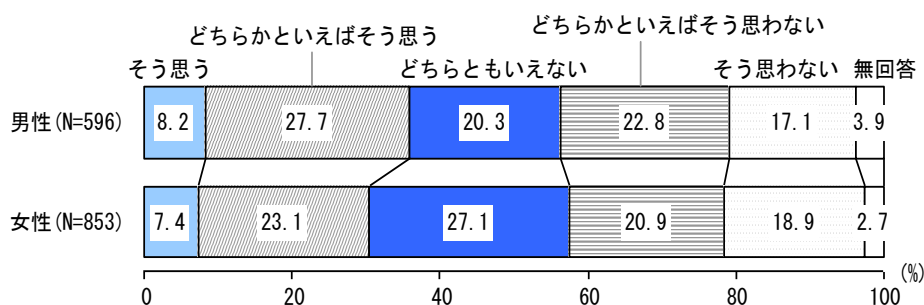
「ア. すべての人が平等に扱われるべきだという考え方がいきわたっている社会だ」を年代別でみると、60歳代以下の年代で“否定派”が過半数を占めているが、年代が上がるにつれて平等な社会であるとする肯定派が増えているのは興味深い。70歳以上では“否定派”（34.6%）に比べ“肯定派”（35.9%）の方が高い割合になっている。（図 1-3-2）

【図 1-3-3 最終学歴別 ア. すべての人が平等に扱われるべきだという考え方がいきわたっている社会だ】



「ア. すべての人が平等に扱われるべきだという考え方がいきわたっている社会だ」を最終学歴別でみると、各学歴で“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっている。また、中学校などを他の学歴と比べると、“肯定派”の割合が最も高く（28.5%）、反対に“否定派”の割合が最も低くなっており（43.4%）、特徴的であるといえる。（図 1-3-3）

【図 1-3-4 性別 イ. 規律や礼儀が重んじられている社会だ】

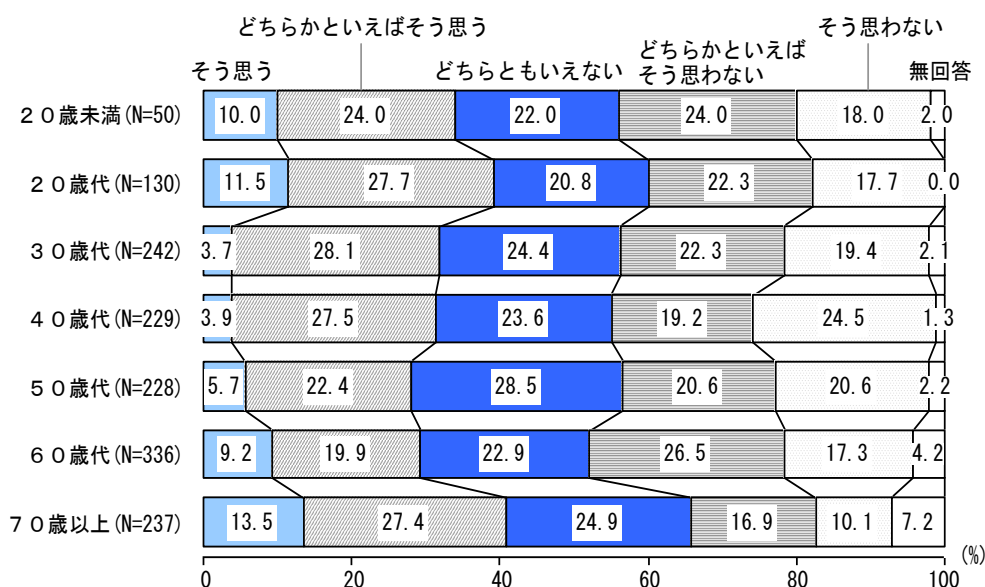


「イ. 規律や礼儀が重んじられている社会だ」を性別で見ると、男女とも“否定派”が4割近くを占めている。

また、“肯定派”では男性（35.9%）が女性（30.5%）に比べ5.4ポイント高くなっている。

（図 1-3-4）

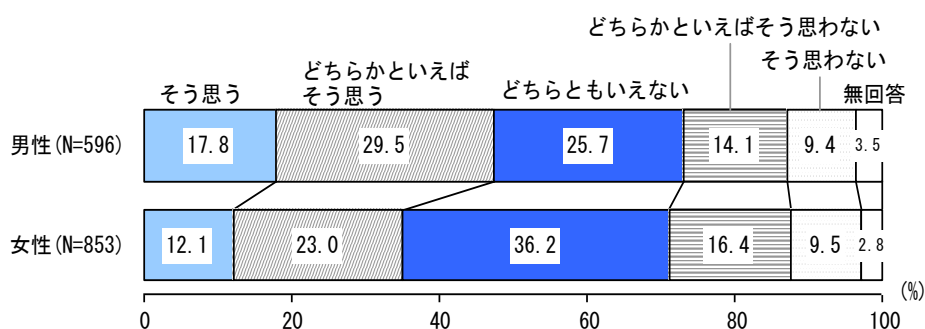
【図 1-3-5 年代別 イ. 規律や礼儀が重んじられている社会だ】



「イ. 規律や礼儀が重んじられている社会だ」を年代別で見ると、60歳代以下の年代は“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっているが、20歳代では“否定派”（40.0%）と“肯定派”（39.2%）の差がほとんどない。ここでも20歳代に特徴的な傾向がうかがえる。

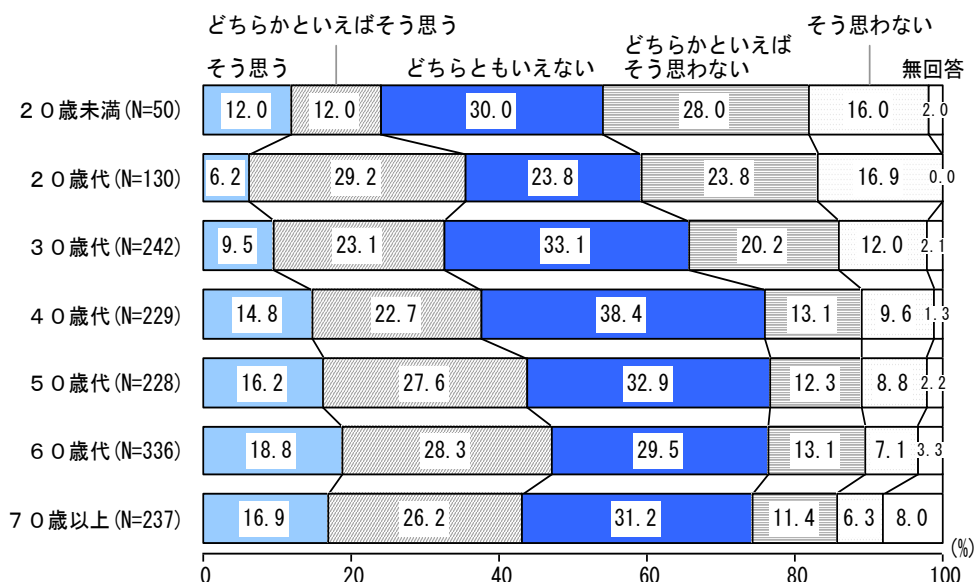
70歳以上では“肯定派”（40.9%）が“否定派”（27.0%）に比べ13.9ポイント高くなっている。（図 1-3-5）

【図 1-3-6 性別 ウ. 権利や自由の主張がいき過ぎている社会だ】



「ウ. 権利や自由の主張がいき過ぎている社会だ」を性別で見ると、男女とも“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高く、男性（47.3%）が女性（35.1%）に比べ12.2ポイント高くなっている。（図 1-3-6）

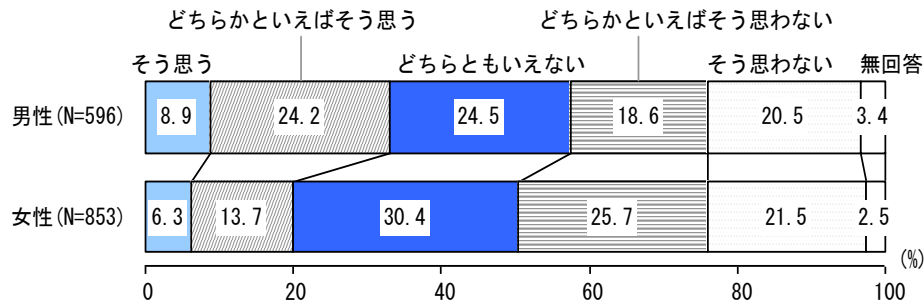
【図 1-3-7 年代別 ウ. 権利や自由の主張がいき過ぎている社会だ】



「ウ. 権利や自由の主張がいき過ぎている社会だ」を年代別で見ると、20歳代以下の年代では“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高く、4割台を占めている。

30歳以上の年代では“肯定派”が“否定派”に比べ高くなっているが、30歳代は“肯定派”（32.6%）と“否定派”（32.2%）に、ほとんど差は見られない。（図 1-3-7）

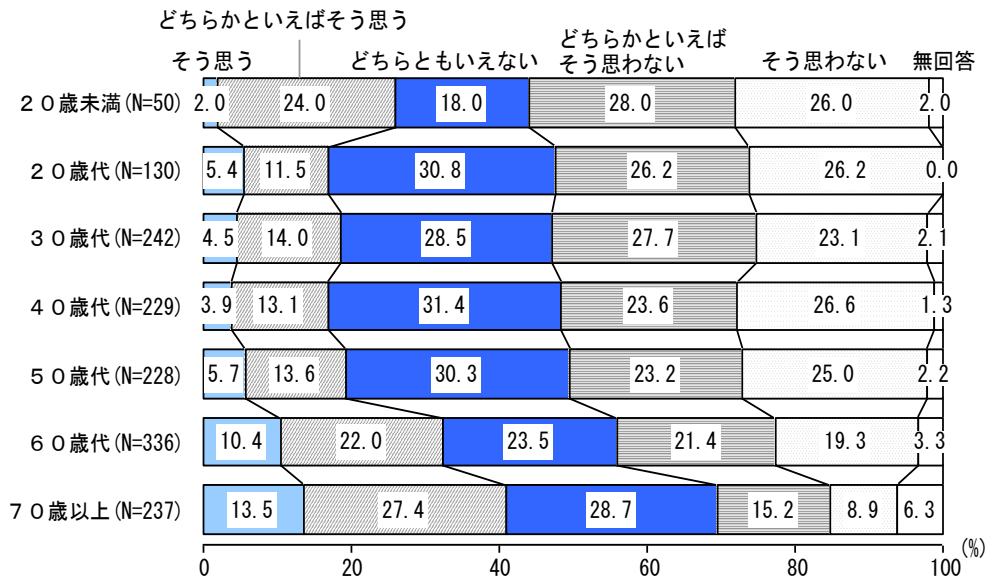
【図 1-3-8 性別 エ. 努力すればむくわれる社会だ】



「エ. 努力すればむくわれる社会だ」を性別で見ると、男女とも“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっており、女性（47.2%）が男性（39.1%）に比べ 8.1 ポイント高くなっている。

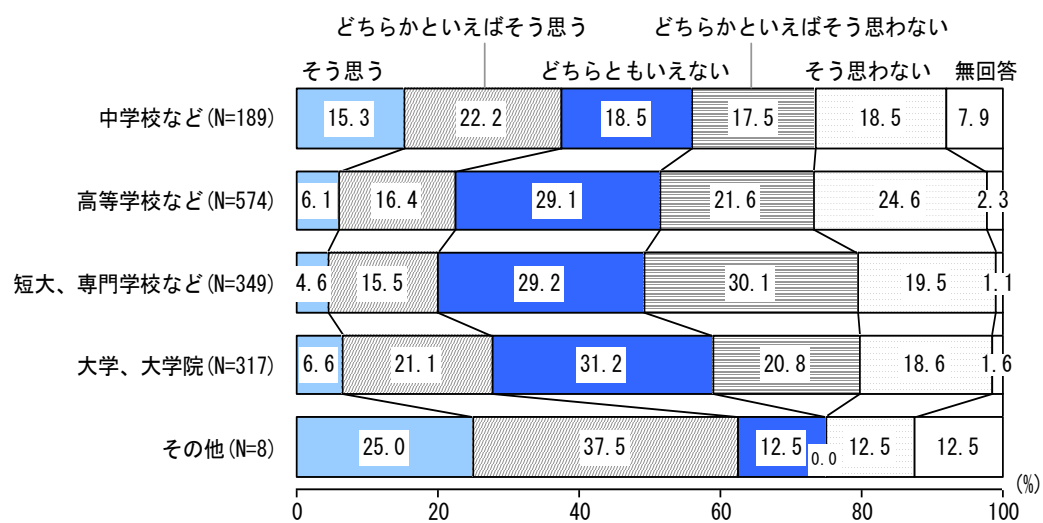
一方、“肯定派”では男性（33.1%）が女性（20.0%）に比べ 13.1 ポイント高くなっている。女性の置かれている立場が表れていると言えようか。（図 1-3-8）

【図 1-3-9 年代別 エ. 努力すればむくわれる社会だ】



「エ. 努力すればむくわれる社会だ」を年代別で見ると、若い世代ほど「努力してもむくわれない社会」と感じており、特に 40 歳代以下の若い層では、いずれも過半数の人が否定的見解をもっていることになる。逆に経験を積んだ、60 歳代、70 歳代以上の人たちが「努力すればむくわれる社会」と考える人の方が多く、大変興味深い結果となっている。（図 1-3-9）

【図 1-3-10 最終学歴別 エ. 努力すればむくわれる社会だ】



「エ. 努力すればむくわれる社会だ」を最終学歴別で見ると、唯一中学校などだけが「努力すればむくわれる社会」と考える人の割合がわずかに高く、高等学校以上の学歴では「努力してもむくわれない社会」と考える人の割合が高くなっている。（図 1-3-10）